

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104522
法人名	医療法人 サン・レオ会
事業所名	グループホーム ゲンキ館
訪問調査日	平成19年8月1日
評価確定日	平成19年9月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104522
法人名	医療法人 サン・レオ会
事業所名	グループホーム ゲンキ館
所在地	鹿児島市上之園町29番地14 (電話) 099-258-7113
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年 8月 1日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 8月 22日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 鉄骨 造り 4階建ての 4階 ~ 4階部分
------	-----------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

### (4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	4名	女性	4名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4歳	最低	68歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 甲南クリニック 浜島歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島中央駅に近く、交通の便の良い場所に位置している。正面に小学校、近隣には買い物の出来るスーパーもあり、入居者が家庭と同じような生活を送るのにふさわしい環境となっている。また、当ホームは母体法人のクリニックの4階に開設されており、日々の健康管理や必要な医療の提供、緊急時の対応等、十分な連携のもとで運営されている。また、同クリニックは透析治療を行っており、今後増加が予想される透析治療を必要とする認知症高齢者の方々が、安心してこれまでの暮らしを継続することができるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア ↓ 入居時に全て把握できないこともあり、入居後も継続して入居者本人やそのご家族などから聞き取りしながらその人らしい暮らしとケアの実践に努めるよう改善している。他の項目に関しても全員で話し合い改善に向けた取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員全員で取り組むことにより、普段意識せずに行っている行動の意味が確認できたことで、ホームでのケアのあり方に対する認識が深められている。また、前回指摘された項目についても全員で話し合い改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では前回会議の報告、ホームとしての取り組み状況の報告、行事等の紹介、災害時の対応方法、評価への取り組みなどが報告されている。参加者からも要望・助言が出されサービス向上の機会となっている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に、ホームの苦情相談窓口の他、外部苦情申立機関が明示されるなど、外部者へ意見、不満、苦情を表せる機会が設けられている。来訪時にご家族が意見や要望、相談をしてくださり、その内容をミーティングで検討し運営に反映させ、その後、ご家族へ還元している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者の身体状況などから、地域の行事等へはなかなか参加できない状況にある。また、ホームの立地条件(建物の4階に配置)からも気軽に近所の方が訪れて交流できる状態ではない。今後、地域の皆さんの協力を得ながら、交流の機会を設けていただきたい。
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活につながるような、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの際管理者から常に声かけがされ、日々のケアの中で壁にぶつかったら、まず理念に立ち返り考えるよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の身体状況などから、地域の行事等へはなかなか参加できない状況にある。また、ホームの立地条件(建物の4階に配置)からも、気軽に近所の方が訪れ交流できる状態ではない。	○	入居者のご家族や地域の方々の協力を得ながら、入居者が孤立することなく、地域の一員であることを認識できるように、地元の人々との交流の機会を設けていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組むことにより、普段意識せずに行っている行動の意味が確認でき、ホームでのケアのあり方に対する認識が深められている。また、前回指摘された項目についても、全員で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では前回会議の報告、ホームとしての取り組み状況の報告、行事等の紹介、災害時の対応方法、評価への取り組みなどが報告されている。参加者からも要望・助言が出されサービス向上の機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員受け入れによる情報収集や保護担当の方の訪問はあるが、運営推進会議以外にホーム側から訪問することはさほど多くはない。	○	地域密着型サービスの担い手として、事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題について、必要に応じて市の担当者と協議しながら課題解決を図っていくような関係づくりが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が頻繁に訪問されるので、入居者の暮らしぶりや健康状態などはその際に直接報告することが多い。また、遠方のご家族に対しては、電話やゲンキ館便りにより報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、ホームの苦情相談窓口の他、外部苦情申立機関が明示されるなど、外部者へ意見、不満、苦情を表せる機会が設けられている。来訪時にご家族が意見や要望、相談をしてくださり、その内容をミーティングで検討して運営に反映させ、その後、ご家族へ還元している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心掛けている。やむを得ない離職などが発生した場合も、法人内の異動等により素早く対応し、入居者へのダメージを防ぐよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議等を利用して救急対応の勉強会等を定期的で開催しているが、職員を段階に応じて育成するための計画にそった取り組みは十分とは言えない。	○	職員の段階に応じた育成スケジュール作成や、計画に基づく職場研修の実施等を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で知り合った同業者と情報交換を行うことはあるが、積極的な交流は行っていない。	○	地域の同業者との交流を通じた勉強会や、相互訪問等によるサービスの質の向上への取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人及びご家族にホームを訪れてもらい、それぞれが納得していただくまで話し合いを重ね、入居後混乱なく安心してサービスが開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「家庭と同じような生活を共にしておく」と理念にも掲げ、ホームとして最も大事にしている部分である。入居者に対して尊敬の念を持って接することで、職員の知らないことや昔のことを教えて下さったり、書類の記入している姿を見て「仕事大変だね、ご苦労さん」と声をかけてくださるなど、日常生活の中からお互いに学び支えあう関係づくりができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向については日々の関わりの中で入居者の言葉や表情から汲み取り把握し、毎月のミーティングで話し合いその情報を共有している。また、ご家族とも話し合い本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やご家族の意向を最優先とし、日々生活を共にしている職員の意見や主治医、理学療法士の意見を参考に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、容態の変化等に応じて見直しを行い、入居者本人やご家族の意向をふまえ職員や主治医等と話し合いながら、より現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物にある母体法人の運営するクリニックや通所リハビリテーション事業所を有効に活用し、医療処置を受けながらホームでの生活を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人やご家族の希望により、かかりつけ医は全て母体法人のクリニックとなっているため十分な連携がとれており、適切な受診が支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人及びご家族の希望を常に確認しつつ、かかりつけ医と繰り返し重度化した場合や終末期のあり方について話し合いが行われ、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの尊厳やプライバシーについて日々の関わり方を点検し、職員の意識向上に努めている。病状等の個人情報については、特に慎重な取り扱いを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	わがままと希望はきちんと区別し、できるだけ入居者本人の意思、気持ちを尊重した上で、その人らしい暮らし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	男性の入居者が多く、食事の準備や片付けなど一緒に行うことは少ないが、入居者と職員が楽しく会話しながら必要な支援が行われ、食事を楽しむことが出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は実質的に困難であるが、基本的に入居者本人の希望に応じて入浴、シャワー浴、足浴、清拭等柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者と共に楽しい日々を過ごせるよう、新聞と一緒に読んだり歌を歌ったりと、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって、周辺の散歩や買い物等、日常的な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状態や周囲の環境を配慮した結果、ご家族の希望及び同意のもと施錠されている。ただし、玄関にチャイムをつけたり見守りを徹底することで、入居者にストレスを感じさせないような配慮がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時災害マニュアルが作成され、消火、避難訓練が実施されているが、地域の人々への協力を得られるような働きかけは行われていない。	○	民生委員を中心に、災害時対応のためのリストにホームの入居者の存在も加えていただくなど、地域住民との協力体制を築いていく取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホワイトボードなどを有効に使いながら、食事及び水分の摂取量を把握し、必要量の確保に努めている。食事はクリニックの厨房で作られており、管理栄養士により適切に管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは建物の4階に位置しており、窓からの眺めが良好である。共用空間には、季節の花や飾り付けがしつらえてあり、ゆったりと過ごせる量の部屋が配されるなど、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具に加え、テレビや仏壇なども持込まれたり、本人の好みのカーテンに取り替えられるなど、居心地よく暮らせるように配慮されている。		